

# 多高通信

第197号 令和4年3月28日発行



さどく ゆたかに たくましく  
宮城県多賀城高等学校

## 祝 44回生 卒業おめでとう!

3月1日、第44回卒業証書授与式が挙行されました。新型コロナウイルス感染予防のため残念ながら在校生の参加は叶いませんでしたが、保護者の皆様方に見守られながら、普通科229名、災害科学科38名、計267名が本校を巣立っていきました。

■送辞 2年2組 菊池せせら(東豊中出身)

先輩方を思うとき、いつも「チーム」という言葉が浮かびます。嫌というほど耳にした新型コロナウイルスの影響

で、学校生活のほとんどが制約のある中で活動となりました。そんな中でも先輩方は、様々な行事の中でクラス一丸となることを一層大切に、常に一つ一つのことに真剣に向き合っていました。当たり前のことが当たり前ではないということ、を体現するかのよう、一度きりの高校時代を輝かせようとする姿勢、仲間とのチームワークを形にして私たちに見せてくれたのです。

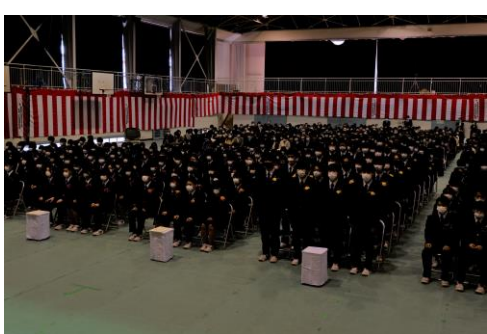
私たちが在校生も、「多賀城ワンチーム」という言葉を胸に、より良い学校を作っていきます。

■答辞

3年7組 櫻井 乃綾

(多賀城中出身)

高校生活を振り返ると、「変化」が多く様々なことに挑み続けた3年間でした。



思い返せば3年前、不安と期待を胸に多賀城高校に入学し、慣れない環境に戸惑う毎日でした。それでも、先輩の背中を見ながら勉強や部活動、多高三大行事などすべてのことに全力で打ち込み、必死に駆け抜けました。

しかし、1年生の2月から、学校生活だけでなく日常生活までもが一変しました。学校が臨時休校となり、様々なことが中止を余儀なくされ、今何ができ、この先がどうなるのか、何も分からないまま先の見えない道を歩き続けました。授業も部活動も友達と他愛のない話を笑いあうこともなく、「当たり前」に思える日々や友達がいかに貴重なものなのかを痛感しました。

それでも、私たちは前に進み続けました。修学旅行や三大行事も開催することができました。皆でできることを探し、みんなが工夫をすることで、新しい形の行事を作り上げることができたのです。

3年生になっても、私たちは先生方や仲間とともに前を向き、たくさん挑み続けました。学校内には最後の大会やコンテストに向けた部活動の音が響き渡り、教室や職員室前などではいつもたくさんの生徒の勉強する姿が見られました。

確かにこのコロナ禍で失ったことはたくさんあります。しかしそれでも、多くの仲間たちと必死に駆け抜けた3年間は私たちに多くのものを与えてくれました。この経験を糧として、私たちはこれからも挑み続けます。

## 東北地区サイエンスコミュニティ 研究校発表会

1月22日、令和3年度

東北地区サイエンスコミュニティ研究校発表会がオンライン形式で行われました。東北地区6県のSSE指定校など、自然科学等の課題研究に取り組んでいる高校生が、授業

や部活動で取り組んできた研究成果を発表し、発表者との対話を通じて相互評価を行うことで研究のレベルアップにつなげる発表会です。新たな価値



44回生 学年主任&担任団

を創造し、国際的課題を解決する人材となる高校生らの研究活動を支援する地域の体制づくりへのつながりも期待されます。

本校からは、「大根の辛みと抗菌作用」と題した研究を、普通科理系2年生の5名が発表しました。研究の成果を、東北6県のSSE指定校の生徒に向けて発表することで、プレゼンテーション力や多角的な視点で見る力を養うことができました。また、質疑応答により研究を見つめ直し、そこから新たな課題を発見する良い機会となりました。

■2年5組 渡邊 優奈(利府中出身)

大学教授の方々からの質疑を受け、自分たちの研究に新たな視点が生じ、研究に対する意欲がさらに湧きました。今回受けた質問や疑問に対して、より研究を深めて解決していきたいと思えます。

## 京都塔南高校オンライン交流

2月18日、京都市

生物室からiPadを使って接続しました

立塔南高等学校の防災ボランティアリーダーの代表6名と本校災害科学科2年生の代表8名が参加し、お互いの学校が取り組む防災活動に関する情報交換をオンラインで行いました。

塔南高校では、防災ボランティアリーダーとして20名が活動しており、地域や行政機関と連携して防災・減災意識の向上を図るなど、防災・減災に意識の高い活動を行っています。塔南高校からは防災ボランティアリーダーの取り組みや防災クイズの紹介などがあり、本校からは東日本大震災における宮城県の被災状況や、本校が取り組む津波波高標識の設置活動、栗駒・気仙沼巡検などを紹介しました。

お互いの活動報告が終わった後の意見交換では、本校生徒は東日本大震災で自らが体験した情報を伝えたり、現在の復興状況を伝えたりする等、防災・減災の高い志を持つ遠隔地の高校生と気持ちの繋がる交流を行いました。

■2年7組 淡谷 倅(田子中出身)  
今回、塔南高等学校の「防災ボランティアリーダー」との交流を通して、自分たちが何を学んでいるかを他の学校に広め、お互いに防災意識を高めることができました。塔南高校の皆さんは、実際に災害を経験したことの無い人がほとんどで、実際に被害に遭っている人の話を聞いてみたいとおっしゃっていたので、自分たちの覚えている限り、東日本大震災や大川小学校の震災遺構の話をしました。また、宮城県の人々にとって震災は身近なものであるということも伝えました。

これからも、東日本大震災を風化させないためにこういった交流は大切にしていきたいと思います。

1学年課題研究

## 国立国会図書館特別授業

2月8日、1年生の課題研究の時間に国立国会図書館の特別授業を行いました。

授業の目的は、ウェブサイト「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ」(愛称「ひなぎく」)の役割を理解すること、各自が事前に書いた防災・減災に関するレポートを深化させる情報検索をすることでした。

まず、国立国会図書館の職員、鈴木三智子さんより震災のデジタルアーカイブ「ひなぎく」の概要と使い方を講義していただきました。その後、生徒達は必要な情報(今回は写真をスマホやスマートフォンを使い、「ひなぎく」で検索しました。生徒達は1枚の写真から多くの情報を読み取り、考察しました。授業の後半には、鈴木さんへ災害科学科の生徒2名がそれぞれの調べたことを発表し、全体で共有する時間も設けました。生徒のプリントに記入された検索キーワードは多様で、レポート作成後に「ひなぎく」の検索を学んだことで、目的意識を持って調べることができていることが分かりました。

